

令和8年度

第二みのり園地域連携推進会議

期日：令和8年4月13日（月）10：45～12：00

1. 管理者挨拶

利用者を中心として、家族、地域、職員の連携（繋がること）を大切にしたい
お互いの顔が見える関係性を築き、利用者の豊かな生活に繋がりたい
本日の会議、訪問巡回については、感じたことや思ったことを遠慮なく言ってください

2. 出席者紹介

地域連携推進員

利用者代表 濱崎剣心 様

利用者家族代表 富永大二郎 様 （武富裕一様家族）

地域関係者代表 森山浩一 様 （長崎市布巻町在住）

管理者 松尾淳一

担当 浜端孝祥

書記 松山由奈

3. 地域連携推進会議の説明

「地域連携推進会議の概要」を見て、内容の説明を行う

・地域連携推進会議は昨年からのスタート

それまでは、文化祭などのイベントを通して、施設に来園する機会があった

しかし… →・普段の様子を見る機会はない

・外部の目が届きにくい

※イベントよりも普段の生活の方が施設では長い時間であり、よい機会である

・意思決定支援の重要性

施設の取り組みとして、本人の気持ちや意思決定を支援することに力を入れている

4. 第二みのり園の状況報告

- ・パンフレットを見ながら、利用者の状況、活動内容、年間行事などについて説明する。
- ・行事での写真を見て頂く



利用者が喜んでいる様子が伺える（日常生活で感情が上がるのが大切）

※ただ、利用者だけが喜んでくれるだけではなく、その際に必要となる道具など準備物を利用者に合わせて職員が一生懸命に作成している。→職員の特技を生かす取り組み

- ・BCP、各委員会活動についての説明を行う。

○業務継続計画（BCP）について→年2回の研修、訓練義務がある
設備の確認、研修や訓練の内容を確認して頂く

○感染症対策委員会について

毎月の勉強会（委員会）に合わせ、年2回の研修、訓練を実施している。
コロナ発生時の対応について、振り返る

○虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会について

職員も人間であり、感情のコントロールは難しいと思う

虐待の境目が難しい

施設側は利用者を守っているつもりでも、外部から見てどう見えるのか

→日頃より、利用者中心の支援を心掛け、委員会や研修等で啓発している

○避難訓練等について

地域の消防団との関わり

地震発生時の避難訓練

土砂災害避難訓練

防犯訓練（さすまた使用の体験）

5. 意見交換、助言の聴取

利用者家族

- ・掃除が行き届いており、キレイ
- ・災害時等でのキッチンカーの役割の情報
- ・実際に災害地に行った経験があり、食事の大切さを痛感

- ・施設の立地としては、国道から入り組んだところにあるが、実際に来てみて閉鎖的には感じない
- ・施設での生活状況の概念が変わった

地域関係者

- ・掃除が行き届いている。明るい
- ・夜間帯の職員の人員配置が足りているのか不安
→7年前より、2人体制から3人体制へ変更している
- ・以前は、地域の運動会で施設側からも参加し、関りがあったが、今は地域のイベントがほとんどなくなった
- ・以前は無断外出された利用者の捜索に要請されて参加していた。そのような形でも地域とのつながりは大切
→今後、お互い協力していきたい

感想

- 私たちは毎日生活している環境だが、実際に来て見てみないとわからない状況がたくさんあると感じた。今回もご家族、地域の方に見ていただき、知っていただき、良い機会となった
- 古くからの繋がりが続くことも大切であり、新しく繋がりを持つことも大切。どの場面でも、その中心には利用者が存在していることを再確認できた

※今回参加して頂いた地域連携推進員の皆様、本当にありがとうございました